

『平岡どんぐりの森』は清田区・厚別区に住むお母さんたちを中心にした、身近な自然に親しむ活動をしているグループです。私たちの住む地域には、平岡公園や東部緑地をはじめとする大きな公園・緑地のほかにも、大曲川や野津幌川周辺の水辺やあちこちに残っている雑木林、小さな沢や池など、住宅地の中に貴重な自然が残されています。私達はこうした地域の身近な自然をもっとよく知り、子ども達といっしょに楽しみながら、自然を大切にする気持ちを育てていけたらと願って活動しています。

今年も春がめぐってきました。たくさんの命が冬の眠りから目覚めて活動を始めています。『平岡どんぐりの森』も新年度の活動を元気にスタート、今年は自然の中でどんな出会いが待っているのでしょうか。

\*\*\*\*\* 平岡どんぐりの森 2006年度の活動予定 \*\*\*\*\*

## 自然と あそぼう

### ● ながぐつの土曜日

平岡公園、東部緑地（大曲川）をフィールドに、小学生の親子を中心にした自然観察会です。

のんびり歩きながら、草花や樹木、鳥や昆虫など何でも見てみよう、調べてみよう、四季の自然の中で楽しく遊ぼう、という集まりです。今年度は4/15（春の森たんけんたい）、6/17（トンボをさがそう）、8/5（夏休み大曲川たんけんたい）、9/9（水辺の生きもの）、1/20（雪の森たんけんたい）の土曜日5回を予定しています。毎回、お知らせのチラシを近隣の小学校等に配ります。

### ● お楽しみウォッチング（不定期）

大人の『野遊び』です。近隣の森や林、小川や沢、一人ではなかなか行けないところも歩いてみましょう。林の奥にひっそりと咲いている白い花、梢のてっぺんでさえずる青い鳥…きっと意外な発見がありますよ。ちょっと頑張って、たまには遠出もしてみます。



## 自然を 学ぼう

### ● ツリー 樹木ウォッチング（5月～2月に年8回 第3水曜日の予定）

平岡公園の樹木の四季を観察するツリーウォッチング。3年目の今年は、平岡公園を中心に野幌、西岡など近隣の森も見てみましょう。集合は毎回、平岡公園第一駐車場に9:30です。

### ● アオサギ観察会



毎年春になると、平岡イオンショッピングセンター裏の森に多数のアオサギが飛来してコロニー（集団営巣地）を作ります。札幌市内では最大規模のコロニーです。今年3月8日にアオサギの初飛来が確認されました。

4月から6月にかけて、平岡高校屋上からカラマツ林のコロニー観察会を3回予定しています。

第1回 4月21日（金） 9:30 平岡高校玄関前集合  
住宅地のすぐ脇の林で巣を作り子育てをするアオサギたち。秋になって南へ去る季節まで、アオサギの子育てを見守りたいと思います。

☆ 講演会 11月 or 12月にアオサギ研究者・松長克利さんの講演会を予定しています。

## 自然を 見守ろう

### ● 水辺の生きものを見守る活動



私たちの住む住宅地のすぐ近くに、**ニホンザリガニ**が多数生息している小さな沢があります。道路工事の影響が心配されましたが、昨年の調査で何とか元気に生き抜いていることがわかりました。今年も生息調査を秋に予定しています。

水量の変化や土砂の流入に注意しながら生息環境を守って行きたいと思います。

また、新道建設予定地にある小さな池には、絶滅を危惧される**エゾホトケドジョウ**がひっそりと生き延びています。池の保全について市との合意はできていますが、工事が予定される来年度以降まで引き続き観察を続けます。

### ● 地域の森づくり

地域の自然林の再生をめざす『生態学的混播法』に基づいた森づくりの活動です。

近隣の緑地で樹木のタネを集め、苗床にタネをまいて発芽を待ち、小さなポット苗を仕立てます。

苗を植える場所は、道路建設のために伐採された跡地や新設される公園の一部などですが、今年度は平岡公園内のはらっぱを予定しています。また、今年は植樹してから7年以上経つ新道脇の『開の森』『拓の森』の木の成長を計測して、森づくりの経過を記録していきたいと思います。

### ● 平岡公園ボランティア活動

平岡どんぐりの森は、平岡公園ボランティア団体として登録しています。これまで、公園内の湿地と池作りに計画段階から関わり、協力してきました。公園管理事務所と札幌市の担当者、湿地専門家の先生との『はらっぱ会議』での話し合いを基本に、湿地の植生の安定や自然観察会に協力していきたいと思います。

**平岡公園にぎわいフェスタ**は今年で第8回目、公園管理事務所との共催で9月末に開催予定です。



## 1月～3月の活動から



ハリギリ。これが親の木でしょうか。森の奥で、次の世代が順調に育ってほしいものです。

ウサギの耳が並んでいるのは、おなじみのオオカメノキの冬芽。二つの耳にはさまれた丸い花芽がいくつも春を待っています。

### 2月15日(水) ツリーウォッチング(東部緑地)

東部緑地へ行くと、いつもとは違った眺め？大きな雪山が出現！今年の記録的な降雪の証、排雪場に捨てられた雪の山でした。

優しい日差しを感じながら、スノーシューで冬の森を大胆に歩きます。大曲川近くには、あちこちにネズミヤリス、ノウサギの足跡が続いています。丸いドロップのようなウサギの落し物を見つけたり、野鳥の声を聞きながら木々の間を通り抜け、珍しい木肌や冬芽などを観察。帰り際にコナラの冬芽に1mm弱の「白い虫のたまご」を発見！ルーペで見るとウニの形のような綺麗な模様が見えました。これがあの**アイノミドリシジミ**に変身するなんて！！こんな感動を「誰かに伝えたい」と心から思う一時でした。



### 2月18日(土) ながぐつの土曜日(平岡公園)

雪の森たんけんたい第2弾は参加者8名と少人数ですが、元気に出発。今日は、まささらな新雪の上に小さな足跡をたくさん発見！木から木へと根元をたどるように足跡が続いています。よく見るとあちこちの窪みに小さな穴があって、ここから出入りしていたらしい。今頃はどこかの穴の奥でじっと身をひそめているのでしょう。**エゾアカネズミ**などの森の小さなネズミの仲間でしょうね。



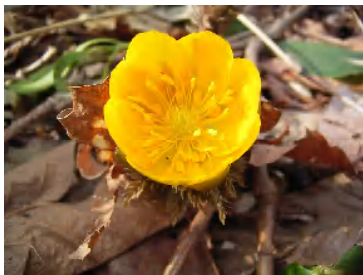
林のふちの明るい所で、コナラの枝先に小さな卵2個を見つけました。シジミチョウの卵だそうです。ホントに小さな卵なので、ルーペを取り出してじっくりと観察。注意深く探してみると、コナラやミズナラの冬芽にくっついている白っぽい小さな卵をいくつか発見できました。シジミチョウの仲間の中でもコナラやミズナラの森に多い**アイノミドリシジミ**の卵らしい。ミドリ色がかった美しい小型のチョウで、あまり多くはないけれど、平岡公園や東部緑地でも時々見かけます。卵で越冬して、7月に成虫になるそうです。夏

になったら、そうっと探してみてください。

### 3月3日(金) 野幌森林公園スノーシューハイク

車で野幌へ向う前からきめ細かい雪が降り出しましたが、到着する頃には青空が広がり良い天気になりました。

新雪で動物の足跡が隠れてしまい、痕跡を探す絶好のチャンスを逃したかなと話しながら、野幌トド山口(立命館慶祥高校前)からスノーシューを履いて出発。それでも、ゆうさんが案内してくれた森の奥の野生動物の通り道にはノウサギやエゾリスの足跡があり、自分たちも彼らの気持ちになって追跡しました。気がつくと、森のあちらこちらに私達が踏み残した大きな足跡が、まるで怪獣が歩いたように見えて、大笑い。



太いツルがギュウギュウに巻きついて締め付けられたかわいそうな木々、クマゲラやアカゲラの採餌痕、冬ごもりの樹木を観察、カツラの大木が印象的でした。

野鳥たちも繁殖の季節を迎え、はりのある声でさえずっていました。

この辺りは早春に**フクジュソウ**の群生も見られるそうです。冬の森は明るくて、スノーシューでの散策はとても気持ちよく、春を感じながら歩いてきました。

### 3月22日(水) 平岡公園はらっぱ会議

昨年度おこなわれた人工湿地と池の環境調査報告を基に、これからの湿地づくりを話し合いました。

矢部先生からの報告では、人工湿地と池に生育する植物は105種を確認、そのうち帰化植物が11種で、9種の貴重種が自生していた。水位の調整など今後の課題はいろいろあるが、人工湿地の群落は安定してきているとのこと。かつて石狩低湿地帯に広がっていた原風景に手軽に触れることができる湿原を目指して、これからもみんなが楽しめる湿地づくりを継続して行くことを確認しました。湿性植物が美しい6月中旬には、公園主催の湿地ツアーが予定されています。

動物の調査結果では44種の生息が確認されました。その中には魚類3種(**スナヤツメ**、**エゾホトケ**、**エゾトミヨ**)、昆虫類2種(**オオコオイムシ**、**ゲンゴロウ**)、マキガイ類1種(**モノアラガイ**)などの貴重種が含まれます。このように人工池、湿地、池からの排水路などで多様な水環境が見られ、それを取り巻く植生は多様な生物を育てています。



しかし、このような良い結果を聞いて、ホツとしてばかりはいられません。同じ水辺で、ミシシippアカミミガメ(子ガメは通称ミドリガメ)とクサガメが確認されました。これらのカメは越冬して、魚、ザリガニ、貝類、水生昆虫、水草を餌とするので、他の水中の生きものに与える影響は大きい。

ペットとして飼育されていたものが、ここに捨てられたようですが、自分で飼育ができなくなったからといって、水辺に放してしまうとどうなるか?観察会やどんぐりの森通信でも取り上げて考えて行きたいと思います。





## エゾホトケって 変なやつ

文と写真 桑原禎知 (鯢・生態調査/資料映像)

エゾホトケを一言で表現すれば“変なやつ”。何でこんなところに？と問いたくなるような場所に棲んでいたりします。大きさは7センチぐらいで、8本のヒゲが特徴です。また、オスの体にはくっきりとした一本の黒いラインが見られます。どうやら成熟していることの合図のようです。

エゾホトケは流れの速い川には少なく、昔の蛇行跡に残った沼や湿地の小さな流れが好きなようです。でも、思いのほか泳ぎは得意で、本州に棲む近縁のホトケドジョウと比べるとはるかに大きなヒレを持っています。泳げるのに普段は動かない怠け者？にも見えます。実は、雪融け時期や大雨で川が増水した時に活発に泳ぎます。他の種類の魚がいないような水たまりを求めてちょっとした落差は泳ぎ上っていきます。水が涸れてしまわなければ敵の少ない新天地をもとめる開拓者＝ギャンプラーです。

繁殖力は強いようで、条件が満たせば10畳ぐらいの沼に数百匹が生息していたりします。ただし、すぐ近くに他の安定した生息地が見つからないことも多く、ある生息地が無くなるとしばらくその地域で確認されなくなるという“事件”も起こったりします。このため、絶滅危惧種に指定することになりました。

平岡地区では、平岡公園のビオトープや通称ホトちゃん池に生息しています。2004年の調査では、ホトちゃん池でのべ508匹を確認しました。卵を持った個体も5月から7月に見つかり、ゴミだらけの池に意外に多く棲んでいました。ただし、気がかりなのは、この池が平岡公園を含む周りの川や沼とまったく行き来できない状態にあること、水源が涸れたり毒物が投棄されたりしたら一巻の終わり、他の場所から泳ぎ戻ってくることは不可能なことです。また、平岡公園や三里川沿いは多くの市民の憩いの場であると同時に、飼えなくなったペットや別の場所で捕まえてきた生き物を放してしまいやすい場所でもあります。同じ種類であっても、実は別の生息地の子孫だった・・・ということがすでに起こっているかもしれません。そう考えると、人に知られていない場所に生き残っている個体は、その地域の貴重な生き残りであるかもしれません。安易な放流で地域性がめっちゃめっちゃにならないことを願います。



### 平岡どんぐりの森 (代表 荒井美和子)

〒004-0033 札幌市厚別区上野幌3条5丁目12-8 荒井方  
Tel/Fax 011-896-0058



